

# 2011HOKKAIDOトレセン（全道少年選抜） 報告書

期日 平成23年8月9～11日

会場 帯広市 帯広の森球技場

## 1. 参加選手（18名）

山崎悟依、津田和哉、佐藤聖椰、本間柊人、高橋海斗、岡田良太（T.WEST）、金子凌大、山本昂汰、西澤雄太（ドリーム）、野瀬龍世、川端一輝（Rシュペルブ）、土井雅也、廣田優太（遠矢）、橋本海翔、山田哲大（コンバット）、八重樫健吾（朝陽）、荒井裕斗、鈴木泰輝（愛国）

※ 夏季トレセン参加23名から18名を選抜

## 2. スタッフ

後藤雅宏、広部太一、新谷昭典

## 3. はじめに

U-12として参加するトレセン大会としては集大成といった感のある大会である。全道各地およびコンサドーレ札幌が一堂に会し行われるトレセンとしては最も規模が大きい大会である。初日と3日目を各地区の対抗戦、2日目は各地区の選手を混在させたチーム編成での対戦という形で選手がそれぞれ切磋琢磨する大会となった。また、同時にナショナルトレセンへの選考のための最後の大会になり、選手は3日を通じて評価を受ける場となっていた。

地区対抗戦の組み合わせは、正式にアナウンスがあったわけではないが、上位下位に分けられて配置されていた模様。釧路地区は残念ながら下位リーグに回されたようだ。5年時のU-11冬季交流大会の結果からグループ分けが行われ、それが最終日まで続くことになった。冬季大会は様々な要因から下位に低迷していたものの、普段対戦することのできない地区との対戦（例：札幌、コンサ、函館等）が不可能だった大会の持ち方に疑問を感じる部分であり、同時に低迷する釧路地区U-12の発奮材料として各チームにお知らせしたい。

今回も選手達はたくましく自立した生活態度であり、猛暑の3日間をケガ・病気・体調不良者を出す事なく乗り切ったのは大きな成果であった。

なお、8人でのフォーメーションは3-3-1を基本とした。  
(各地区基本は3バックになっている。十勝は2-3-2。)

## 4. 対戦結果

一日目	三日目
VS 北 空 知 3 - 2 ○	VS 室 蘭 2 - 6 ●
VS 苫 小 牧 2 - 1 ○	VS 苫 小 牧 1 - 1 △
VS 千 歳 4 - 0 ○	

## 5, 成果と課題

### <成果>

#### ○ DF のグループ戦術

⇒ DF の個人戦術、グループ戦術の理解が高まってきたので、粘り強くボールを奪いにいく姿勢がチーム全体で見られた。それによって、高い位置からボールを奪う事ができ、ゴールのチャンスにつなげることができた。

#### ○ ボールポゼッションの意識

⇒ 攻撃の優先順位を守りながらも、多くの選手が関わる事で選択肢を増やす事ができてきている。自陣ゴール前やプレッシャーにも負けずに失わずにつなげる意識が高まり、チャンスを多く作り出す事ができた。

#### ○ GK の関わり

⇒ 効果的な GK の関わりが増えてきた。バックパスで展開すること、ビルドアップに参加すること、長短のフィードを使い分けること、的確なコーチング等、自信を持って FP に関わる事ができた。

### <課題>

#### ● 効果的な意図のある細かなポジショニングの修正

⇒ 攻守両面でボールに対する関わりを持つためのポジショニングがあいまいな場合が多かった。意思が見られないポジショニングのため、ミスにつながり、ボールを失う場面が見られた。  
□ 効果的なフリーズコーチングで場面を分かりやすく切り取ったり、作戦盤を利用したりと視覚的に分かりやすく伝え、ポジショニングを修正していきたい。

#### ● 守から攻へのトランジション

⇒ 切り替え自体は早くなってきたが、あわてて縦にカウンターばかりを狙う事が多くなる場面が見られた。  
□ 速攻、遅攻の使い分けなど、状況をよく観て判断できるようにコーチングしていく。常に、状況の確認、判断を求めていく。

#### ● 観ること

⇒ 観る事への意識は高まってきているが、何をどこまで観て、どう判断するのかがあいまいになっている部分があった。  
□ 状況判断するために、選手からの言葉・行動、選手同士のミーティングなど、より主体的にサッカーに関わる場面を増やしていく。

## 6, 全体講評

おそらく5年時の冬季交流大会の結果からの組み分けだと考えられるが、今回の大会のグループ分けは下位グループとなった。予選でどのような結果であっても上位グループとの対戦が無い以上、NTC 選考への道は今回のゲームでの圧倒的なパフォーマンスを発揮することしかなかったのが現状であった。

予選リーグでは、3試合ともボール保持率が高く、攻撃に関わっている時間が多かった。ただ、GKを含めたポジションを目指しているため、自陣近くミスは決定的な場面を与える事となった。失点したケースはいずれもミスがらみであった。攻撃では優先順位を確認しながら、ボールを失わずにゴールへとつなげること、守備ではファーストDFを決定し、状況にあわせてマークとカバーからボール奪取を狙っていった。得点はあまり奪えなかったが、個の走力やフィジカルの強さにばかり頼る事のないサッカーができたと考えている。

3日目の順位戦でもよいサッカーを続けることを目指していたのだが、1回戦では前半は互角に戦えたものの、後半に入り失点を重ねることにより、攻撃が単調になるという悪循環に陥り思わぬ大差となってしまった。再度の苫小牧との対戦でも、攻撃に関しての改善を図る事ができずに引き分けに終わってしまった。

2日目のチーム混在のグループ別対戦では、共通のテーマが「守備」ということで、各指導者それぞれが工夫しながらトレーニング、ゲームを行う事とした。私見ではあるが、それぞれ知らない選手・指導者がチームになるということで、どのチームもアイスブレイク的なトレーニングを行った。ゲームがレクリエーション的な側面が強調されすぎた感があった。結果として、個に頼るプレーに終始することが多く、選手が切磋琢磨したり、指導者の指導技術の向上など、今回のグループ別戦の意義について疑問を感じる部分も多かった。意見を伝える場があれば、改善のアイデアを提供していきたい。

サバイバル合宿にGK1名を含めて3名が参加する事となったが、直行組は0人となった。今回からNTCへの参加者を少なくしたとはいえ、直行組が一人も出なかったのは大きな反省点としてあげられる。(その後3名中2名がNTCへ参加、残りの1名もフォローアップには名を連ねる事ができた。)ただし、トレセンを通して、この年代で身に付けてもらいたいことは伝えてきたし、伝わっていると感じている。この後、選手達が大人のサッカーにさしかかった時、今回学んだ成果が生かされると信じている。

最後に本大会に参加するにあたり、多大なるご協力をいただいた各チーム関係者の皆様、日々のトレーニングをさせてくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともトレセン活動へのご理解とご協力をよろしく願いいたします。

文責：釧路トレセン6年担当 後藤雅宏